

# 2012(第17回)アイレックまつり

男女共同参画センター(アイレック)は「女性も男性も性別にかかわらず個人として尊重され、平等に暮らせるまち」をめざして開設されました。これを記念して毎年アイレックまつりを開催しています。このまつりは、公募で集まった市民(実行委員)が主催し、企画・準備・当日の運営も市民が行う、アイレックならではの「市民参画」による手作りのイベントです。

## 講演

### 変わる家族のかたち

#### そして未来

講師 山田 昌弘さん  
(中央大学文学部教授)



山田 昌弘さん

「働くことと愛すること、人がうまくできないければならないこと」と、精神分析

学者のフロイトは言っています。しかしいま日本社会では、新卒でも正社員になれない、結婚したくてもできないなど「働くこと」「愛すること」がうまくいかなくなっている若者が増えています。

講師は、農業社会から工業社会、そしてニューエコノミー(脱工業化、情報化、グローバル化)という日本社会の歴史的变化に伴って、家族がどう変わっていったのかを解説しながら、男女共同参画社会の実現が急務であることを強調されました。

戦後日本の工業社会では物を作れば売れ、高度成長期(1955年から20年間ほど)には「夫は主に仕事、妻は主に家事」という性別役割分業家族がうまくいきました。夫のみの収入で、豊かな生活ができていたのです。低成長期(1973-1995)に入ると夫の収入の伸びはとまり、

補うために妻のパート労働化が進みました。また男性の収入が増えるまで親元で待つ女性が増え、パラサイト・シングル化、晩婚化していきました。

ニューエコノミーの進展(1995年-)以降「就活」という造語を生み出したように、若者の正規雇用が減り、非正規雇用が増えました。

雇用が不安定で収入も少ない若者は、恋愛や結婚にも消極的で、少子化が深刻化しています。「男性II稼ぐ」という固定的な役割分業は、男性にとっても重荷になってきているのです。

役割をなかなか果たせない男性は、将来に対する見直しを持って、自殺、引きこもり、道連れ犯罪などが引き起こされています。結婚せず親と同居し続ける、パラサイト・シングルの高齢化も問題です。

北欧や英米仏などは、親からの自立を当然視し、成人男女が共に働き生活を維持する社会に転換し、少子化にも歯止めがかかっています。

日本でも、男女がともに参画する社会を実現し、性別役割分業意識にとらわれることなく柔軟な働き方ができるような、条件整備をすることが必要です。経済的に子どもを育てられる見通しがつけば、多くの若者には、結婚や子どもを持ちたい意向が強くなります。子どもを育てながら働ける環境の整備が、若者にとっても、明日への希望を見つけられる社会になるのではと感じました。(黒澤)

## 講演

### 子どもと「一緒にネット社会と

#### うまくつきあう方法

講師 渡辺 真由子さん  
(メディアジャーナリスト)

『私のような人を二度と出さないためには、あまり役に立たないアンケートをするより、教師が自分の目を使うことが大事だと思う』これは、「いじめ」が原因で自殺したある少女(当時中2)の遺書の一文です。

インターネットや携帯電話の普及により「いじめ」も変わりました。

被害者は昼も夜も匿名の相手からの攻撃を受け続け、心の休まる時がありません。「誰がやっているか加害者を特定できない」という認識が「いじめ」をよりエスカレートさせています。しかしこの認識は、実は間違いです。しかるべき機関で調べれば「いじめ」の発信元ははっきりわかるようになっていきます。

インターネットの使い方について、もっと子どもと話しあいましょう。文字は暴力にもなり得ます。「個人情報を守らなさい」



講演会のようす